

北条政子

永井 路子著

北条政子といえば尼將軍と歴史の教科書で紹介されていたくらいしか印象がありません。でも尼將軍 將軍と呼ばれるくらいなのだから相当の女丈夫と想っていました。ここでは北条政子の21歳からの20年くらいまでの話が物語として作られています。教科書を読むだけではなかなか想像することが出来なかった歴史上の人物達が血の通った人間として動き出してゆくのです。嫉妬をむき出しにして憎き恋敵をたたきつぶそうとする北条政子の直情的な行動。そして後悔。夫である源頼朝に対する思い。自分の子供との関係など。ちょっとやりすぎな所があるのは否めませんが、ここで表現される彼女は決して特別な人間ではなく普通の正直な女の人のなものでした。源頼朝も征夷大將軍として鎌倉幕府を築いた完全無欠の英雄ではなく、優柔不断な所もあり、色々な女性に手を出したりするおじさんであったり。その反面、武士の棟梁としての自覚を持ちその立場故に時には厳しい決断実行する御所様であったり。この物語は三代將軍の源実朝が甥である公暁に暗殺され、子供も孫も失った彼女自身が自分の感情を押し殺して尼將軍と呼ばれる支配者になるという決意が暗に示されていると話は終わっています。これまで読んだことのない時代の小説だったこともありとても新鮮でしたが、私にとって「この人みたいになりたい」と思えるような女性ではありませんでした。

文春文庫

F N .

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞